

第3回 鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会

並びにサイクルツーリズムセミナー 次第

日時：令和4年2月14日（月）

13：30～16：00

開催方法：オンライン方式

1. 協議会 議題内容

(1) 開 会

(2) 議 事

1.協議事項

モデルルート（北薩・甕島・種子島・屋久島）について ……………資料 1

2.報告事項

① 走行環境整備に係る方針(案)について ……………資料 2

② 奄美群島サイクルツーリズム構築事業について（大島支庁報告） ……………資料 3

③ サイクルツーリズムロゴマークについて ……………資料 4

④ サイクルツーリズム HP について ……………資料 5

⑤ 来年度のサイクルツーリズム推進事業について ……………資料 6

(3) 閉 会

2. サイクルツーリズムセミナー 「これからのサイクルツーリズム」 講師：金井永里子氏

【会議資料】

- ・資料 1 モデルルート（北薩・甕島・種子島・屋久島）について
- ・資料 2 走行環境整備に係る方針(案)について
- ・資料 3 奄美群島サイクルツーリズム構築事業について（大島支庁報告）
- ・資料 4 サイクルツーリズムロゴマークについて
- ・資料 5 サイクルツーリズム HP について
- ・資料 6 来年度のサイクルツーリズム推進事業について

- ・別紙 1 協議会規約
- ・別紙 2 第3回協議会参加者名簿
- ・別紙 3 サイクルツーリズムセミナー ご案内

協議事項 モデルルート（北薩・甕島・種子島・屋久島）について

熊毛地区と北薩摩地区において地域部会と実走検証を開催し、4つのモデルルート案の作成を行った。あわせてサイクルマップを作成し、県観光サイトにて年度内公開の準備を進めている。
本事項についての承諾可否を「別紙」回答書にて、回答願います。

項目	熊毛地域部会 (種子島、屋久島)	北薩摩地域部会
第1回 地域部会の開催	8月24日 屋久島作業部会 オンライン開催 8月25日 種子島作業部会 オンライン開催	10月6日 オンライン開催
モデルルート素案の作成	種子島ルート:素案ルートを作成 屋久島ルート:素案ルートを作成	甕島ルート、北薩ルート:素案ルートを作成
有識者とのモデルルート 素案の実走検証実施 ※(参考)本会議にて記録 動画放映	10月27日～30日 種子島ルート、屋久島ルートのモデルルート素案を 実走検証	11月4日～5日 北薩ルート、 11月11日～12日 甕島ルートのモデルルート 素案を実走検証
第2回 地域部会の開催	11月29日 屋久島作業部会 開催 11月30日 種子島作業部会 開催 ●モデルルート案の決定、マップ作成に着手	12月6日 開催 ●モデルルート案の決定、マップ作成に着手
第3回 地域部会の開催	1月27日 種子島作業部会 開催 1月28日 屋久島作業部会 開催 ●マップ掲載情報の確認、地域課題の共有	2月3日 開催 ●マップ掲載情報の確認、地域課題の共有

●各地域部会にて、モデルルート案ならびにマップ作成においては、「**サイクルツーリズムの推進**」とともに「**自転車事故のない安心・安全な社会の実現**」へ向けた「**サイクリストの安全確保**」への取組みの両輪をしっかりと取り組むことを認識共有した。
 [サイクリストに対して] 県自転車安全利用五則の徹底、ルート上の注意喚起遵守をマップにも記載
 [地域住民に対して] 同じ道路を共用する軽車両であり脆弱な自転車への思いやり・認識向上による安全確保の推進

モデルルート（案） 1：北薩ルート

- 起点：川内駅、 終点：川内駅 時計回りの一周ルート
- 総走行距離：約 183.5 km ■ 獲得標高：約 3,551 m



【当ルートの注意喚起情報】

- 国道 3 号
 - ・薩摩川内市～阿久根市間は、交通量の多い国道 3 号をモデルルートとしているため、注意喚起情報としてマップにも掲載し、また肥薩おれんじ鉄道のサイクリートレイン（日中時間帯、上川内～出水間）の利用を推奨する案内とした。
 - ・湯田橋架け替え工事が予定されており、その情報を掲載。



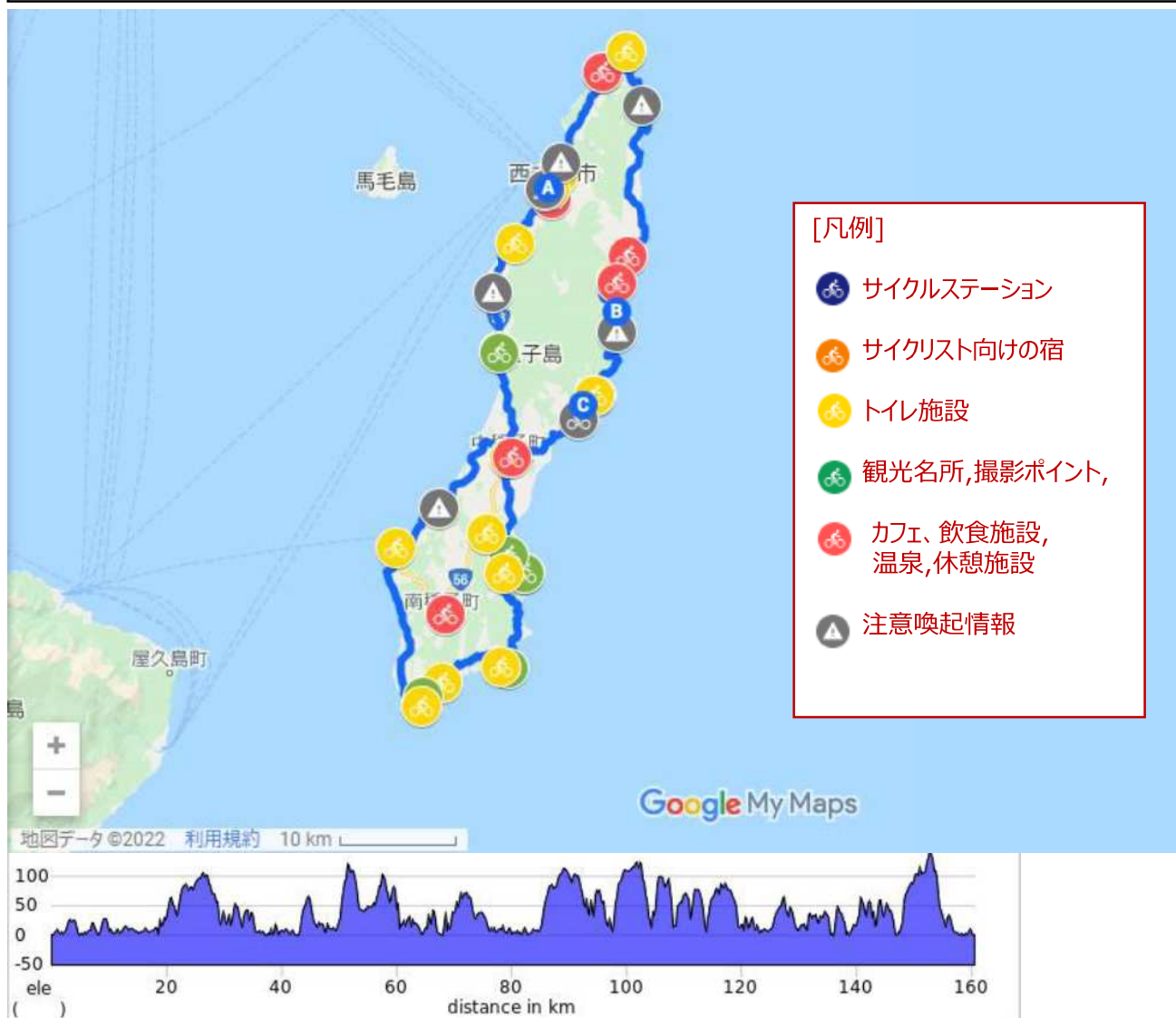
モデルルート（案） 2：甕島ルート

- 起点：川内港、終点：川内港 川内港～里港・長浜港～串木野新港間は航路利用の一周ルート
- 総走行距離：約 100.8 km(甕島72.7km,本土28.1km) ■ 獲得標高：約 960 m



モデルルート（案） 3：種子島ルート

- 起点：西之表港、終点：西之表港 時計回りの一周ルート
- 総走行距離：約 160.6 km ■ 獲得標高：約 2,654 m

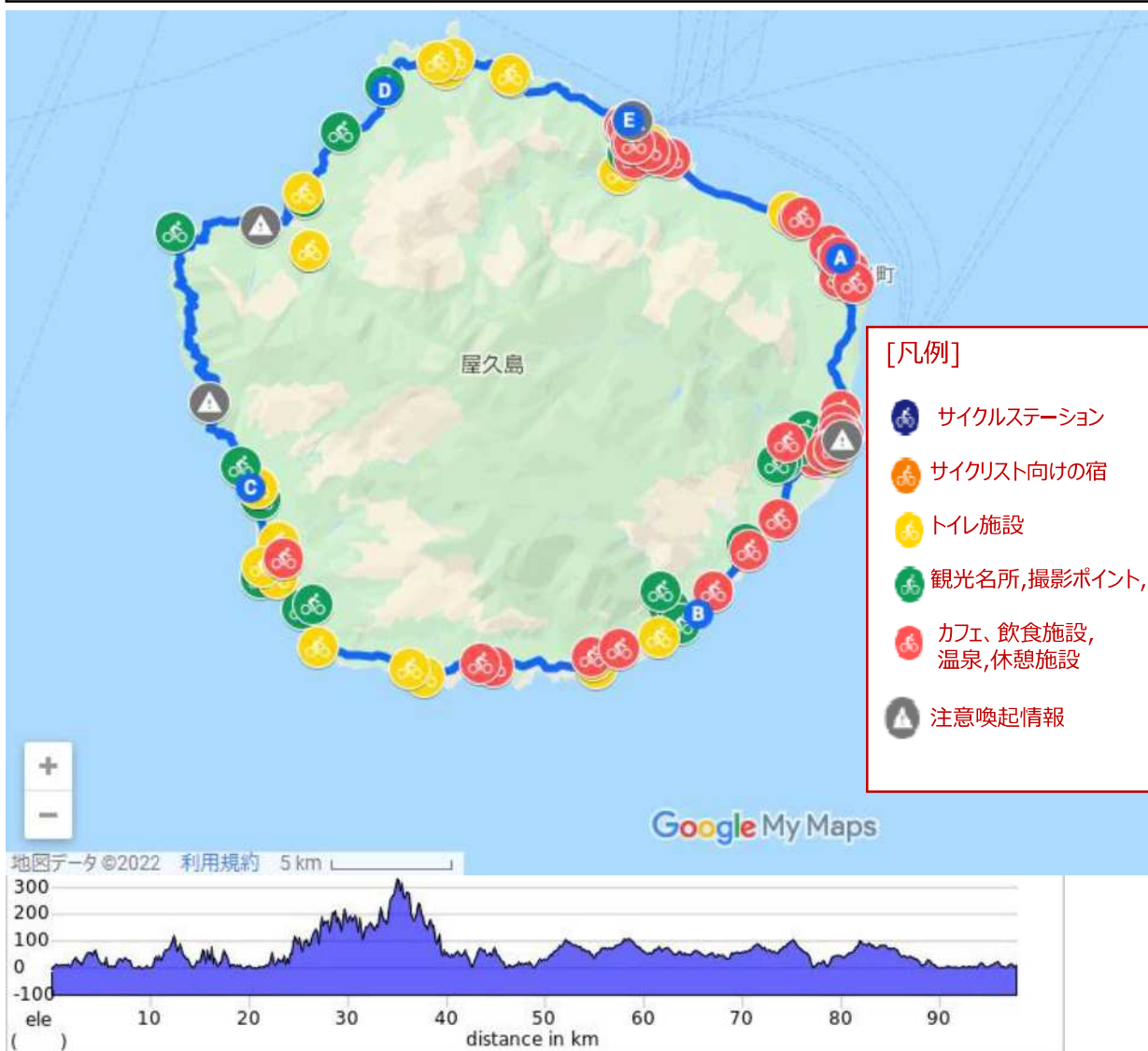


【当ルートの注意喚起情報】

- 国道 58 号、県道 55 1 号
 - ・季節により強い西風や、海岸から吹き上げてくる砂が路面を覆うのでスリップ注意！
 - ・事故防止に努めて、常時ライトオン、スピードを落とし、周囲の交通に十分に気をつけて走行すること。
 - ・サンセットは絶景の名所であるが、薄暮時間帯の走行を避け、日中時間帯に走りきること。
 - ・電波が圏外や通じにくい地域の注意喚起。
- カシミヤ橋
 - ・強風時の通行注意。風速 20m で通行止（旧道への迂回）について記載した。

モデルルート（案） 4：屋久島ルート

- 起点：起点：起点：宮之浦港、終点：宮之浦港 反時計回りの一周ルート
- 総走行距離：約 97.7 km ■ 獲得標高：約 2,171 m



[凡例]

- 🚲 サイクルステーション
- 🏠 サイクリスト向けの宿
- 🚻 トイレ施設
- 🌳 観光名所, 撮影ポイント,
- ☕ カフェ, 飲食施設, 温泉, 休憩施設
- ⚠️ 注意喚起情報



【当ルートの注意喚起情報】

- 西部林道
 - ・屋久島灯台入口付近～栗生付近は、携帯電話の電波も圏外エリアとなり、緊急時対応できないため、ひとりでは絶対に行かないこと。
 - ・ヤクサル等野生動物には、近づかない、触れない、絶対に餌をやらないことを順守すること。（特に 餌やりは法令違反となること。）
 - ・道幅が狭く、日中も日陰が多いため、常時ライトオン、スピードを落とし、周囲の交通に十分に気をつけて走行すること。（薄暮時間帯を避け、日中時間帯に通過すること。）

サイクルマップについて

- 県観光サイトにサイクルツーリズム情報ページを新たに開設（年度内に公開予定で制作中）
- HP上にPDFでダウンロード可能なMAP情報（A4版3つ折りを想定）のQRコードからMAPを読み取る形式（QRコードとURLからの閲覧が可能、サイクリングアプリに連携する場合は、.gpx変換対応で可能な場合もあり。）



HP上にPDF版を紹介し、QRコードからMAPを読み込むことが可能。

（注）MAPはHPと合わせて制作中のため、現時点で表示されるものは、最終化となっており、ご了承ください。
 なお、本資料のQRコードは今後変更ありません。

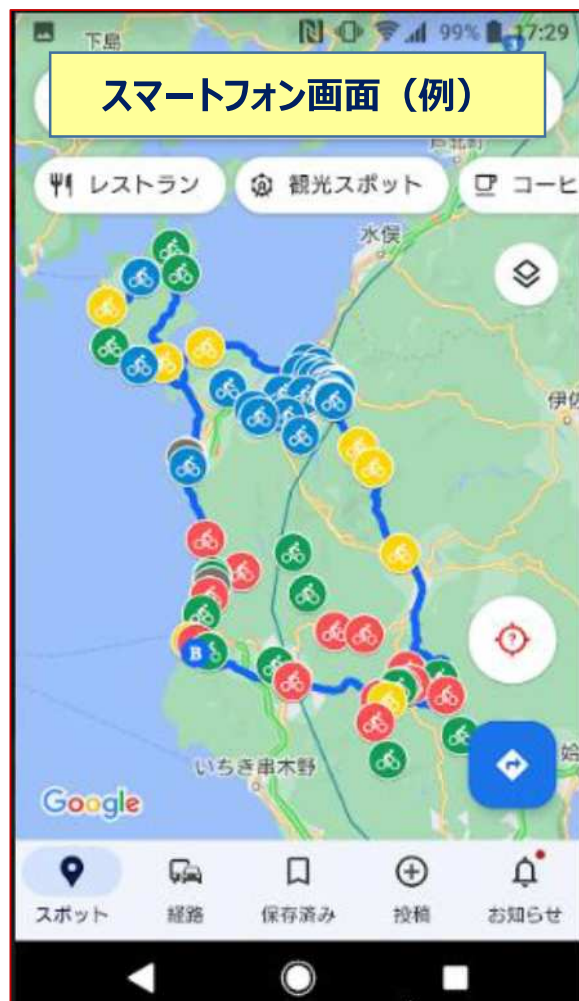
各ルートごとにPDF（A4版 表・裏面）を作成し、マップのQRコードや各エリアの観光・グルメ情報を画像とともに紹介。（例）



（例）北薩ルート

サイクルマップ°（例:北薩ルート）

- マップ自体はおもにスマートフォンからの利用を想定し、GoogleMapを活用したマップを展開
- スポットをPINで表示し、クリックすることで情報を呼び出し、施設によっては最新のGoogle情報で確認も可能



地図を拡大するとGoogleMapの地名や施設名等も表示される。

[参考]地域部会の進め方について

※第1回地域部会資料より抜粋

●モデルルートの設定とサイクルマップの作成までのスケジュール

[本日：8月下旬～10月上旬] 第1回（オンライン）地域部会

- ①モデルルート素案の議論・確認 ②第2回地域部会までの作業確認 ③有識者を含む実走時の検証内容の確認
（施設情報等を含む）※事務局へ連絡票送付

[10月下旬～11月中旬] 有識者を含むサイクリストによるモデルルート素案の実走検証

- ①モデルルート素案を実走検証、有識者による修正、ルートの磨き上げ
②施設等情報の確認とアップデート

[11月下旬～12月上旬] 第2回 地域部会

- ①実走検証によるモデルルート改善案の確認（必要に応じ再実走）
②モデルルートとともにマップに掲載する施設等情報の確認

[11月下旬～2月上旬] サイクルマップの作成

- ①第2回地域部会の修正後モデルルート案をマップとして作成
②モデルルートにあわせたマップに掲載する施設等情報のマップへの反映

[1月下旬～2月上旬] 第3回 地域部会

- ①モデルルート最終案の確認
②サイクルマップ最終案のデータ確認（施設情報等）

★第3回地域部会にてモデルルート案とサイクルマップを最終化し、第3回県サイクルツーリズム推進協議会にて審議を図る。

●有識者を含むサイクリスト●

県下サイクリング事情を熟知し、さらに国内各地のサイクルツーリズムの知見を有する人材を登用。

[黒川 剛 氏]

[徳田 鍛造氏]



セグメント（全体でも最大8名以内）

●地域のサイクリスト 2～4名

- 鹿屋体育大学 自転車競技部 学生
1～2名（実施時期により調整）

- Team ANA 自転車チームメンバー
1～2名

走行環境整備に係る方針(案)について

資料2

鹿児島県サイクルツーリズムモデルルートにおける自転車走行空間整備（路面表示）ガイドライン（案）

1 矢羽根（青色 【参考】マンセル値 5PB 4/10）

区分		鹿児島県	考え方（根拠）	ガイドライン ^{※1}	福岡県	宮崎県	
進行方向	単路部	100m毎に10m間隔で2箇所	全国事例によりガイドライン以上の間隔とし、ナショナルサイクルルートの基準に準拠する。	10m間隔	500m毎に10m間隔で2箇所	60~120m間隔（上下千鳥）	
	交差点部（直進）	【導入部】停止線50m手前より10m間隔 【交差点内】表示なし	左折する自動車に対する注意喚起を目的として、単路部より密にする。福岡県基準を参照。	交差点部などの自動車と自転車の交差の機会が多い区間や、事故多発地点などでは設置間隔を密にする	【導入部】停止線50m手前より10m間隔 【交差点内】表示なし	【導入部】20m間隔 【交差点内】10m間隔	
	交差点部（右左折）	【導入部】停止線50m手前より10m間隔 【交差点内】表示なし	自動車に対する注意喚起を目的として、単路部より密にする。福岡県基準を参照。	交差点部などの自動車と自転車の交差の機会が多い区間や、事故多発地点などでは設置間隔を密にする	【導入部】停止線50m手前より10m間隔 【交差点内】表示なし	停止線50m手前より10m間隔	
	カーブ区間	10m間隔	見通しの悪い区間は、自転車と自動車による事故の危険性が高いため、単路部より密にする。福岡県基準を参照	交差点部などの自動車と自転車の交差の機会が多い区間や、事故多発地点などでは設置間隔を密にする	10m間隔	40m間隔	
	カーブ区間（見通しの良い緩やかなカーブ）	100m毎に10m間隔で2箇所	見通しの良いカーブ区間は、単路部と同等とする。	交差点部などの自動車と自転車の交差の機会が多い区間や、事故多発地点などでは設置間隔を密にする	—	—	
横断方向	歩道あり	路肩に十分な幅員あり	路肩内に設置	ガイドライン ^{※1} 参照	矢羽根の右端が路肩端から1m以上の位置	路肩内に設置	原則外側線の内側
		路肩に十分な幅員なし	原則車道内外側線の下に重複可	ガイドライン ^{※1} 参照	矢羽根の右端が路肩端から1m以上の位置	原則車道内外側線の下に重複可	原則外側線の内側
	歩道なし	路肩に十分な幅員あり	車道内に設置	ガイドライン ^{※1} 参照	矢羽根の右端が外側線から車道内に1m以上の位置	車道内に設置	原則外側線の内側
		路肩に十分な幅員なし	車道内に設置	ガイドライン ^{※1} 参考 ただし、矢羽根のサイズを縮小したもので検討する。	矢羽根の右端が外側線から車道内に1m以上の位置	設置しない	原則外側線の内側

^{※1} 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成28年7月 国土交通省道路局、警察庁交通局）

2 自転車ピクトグラム

区分		鹿児島県
進行方向	単路部	500m間隔を基本とする
方向	交差点部	停止線50m手前 矢羽根の直前に1箇所

矢羽根 <標準形>

幅=0.75m以上^{※1}

長さ=1.50m以上

角度=1:1.6

道路幅員が狭く、歩行者を優先させる道路（生活道路など）では、必要に応じて、以下を採用。

幅=0.75m

長さ=0.60m

角度=1:0.8

自転車ピクトグラム

0.75m以上

令和3年度奄美群島サイクルツーリズム構築事業について

令和4年2月14日
大島支庁総務企画課

1 目的

世界自然遺産登録を踏まえ、周遊ルートを九州だけでなく、奄美群島から沖縄まで繋げられるよう、奄美群島でのサイクルツーリズムの構築に向け協議会を設置し、モデルコースを設定することで、滞在型観光を推進し、奄美群島への交流人口の拡大や観光消費額の拡大を図る。

2 事業内容

- (1) サイクルツーリズムの構築に向けた協議会の設置及び開催(奄美大島, 徳之島, 沖永良部島)
- (2) モデルコースの設定, 実走調査(奄美大島, 徳之島, 沖永良部島)
※ モデルコースは、協議会において検討する。なお、コース設定に当たっては、奄美トレイルやEバイクの活用を視野に入れたものとする。

【モデルコースとは】

- ・ 国内外の誘客を図るため、複数市町村を周遊して楽しむもので、地域の立ち寄りスポットをはじめ飲食店、土産店、宿泊場所、自転車店などを網羅し、走行中の安全にも配慮した、サイクリストに必要な情報が詰まったもの。
- ・ サイクリング中級者をターゲットに設定
- ・ 奄美群島をぐるっと周遊できる、シンボリックなルートというイメージ
- ・ モデルコース以外にも、各地域にはサイクリストにぜひとも訪れていただきたい場所や触れていただきたい魅力がたくさん！そこで、モデルコースのプラスアルファとして、それらのスポットをつないだコースを「派生コース」として各地域に設定いただくことに。

3 サイクルツーリズム協議会

- ・ 10月から11月にかけて「奄美群島サイクルツーリズム協議会」を奄美大島, 徳之島, 沖永良部島で各2回開催。
 - 奄美大島 : ①令和3年10月4日(月), ②令和3年11月4日(木)
 - 徳之島 : ①令和3年10月5日(火), ②令和3年11月5日(金)
 - 沖永良部島 : ①令和3年10月6日(水), ②令和3年11月8日(月)

・メンバー

飲食宿泊業, 自転車店, 交通事業者, 観光事業者, 商工団体, 観光協会, 地域の自転車愛好家, 警察, 市町村など

- ・ 協議会開催後のアンケートでは、離島ならではの意見や感想が寄せられた。

4 実走調査

- ・ 令和3年12月13日(月)から17日(金)にかけて、協議会でブラッシュアップされたモデルコース案を、地域の方々の協力のもと、プロサイクリストに実走いただき、安全性などの調査を行った。

5 今後の予定

県観光課で作成予定のサイクルHPにてモデルコースを公開予定
また、アプリ(ツール・ド)に掲載予定

サイクルツーリズムロゴマークについて

資料4

- ロゴマークは公募によりデザイン案を募集し、県サイクルツーリズム推進協議会の審議を経て最優秀作品を選定し、11月19日に公表、12月23日に県知事より最優秀作品をデザインした上笹貫鷹暁氏を表彰。
- ロゴマークの使用について、各団体におかれては「使用取扱規定」・「使用マニュアル」に沿って所定の手続きの上、今後のサイクルツーリズム推進に広く積極的に活用していただきたい。

※「使用取扱規定」・「使用マニュアル」については、協議会会員団体へ通知済み。（11月19日配信）



KAGOSHIMAに隠された“GO(ゴー)”をキーワードに「鹿児島」と「サイクリング」を結んだロゴマークです。この“GO”は鹿児島の秘めたポテンシャルを示すだけでなく、「行こう」、「先へ」、「未来へ」といったポジティブな記号としても機能します。本県のサイクルツーリズムをわかりやすく示す鹿児島の新しいアイコンです。

南日本新聞(令和3年12月24日掲載)→

＜表彰式の様子＞



鹿児島県が推進するサイクルツーリズムのロゴマークが決まった。県立短期大学教員の上笹貫鷹暁さん(27)のデザインで、鹿児島島のローマ字表記に含まれる「GO」の文字と桜島を組み合わせ、自転車を表現した。

県サイクルツーリズム

県や市町村で構成するサイクルツーリズム推進協議会が公募、67点の中から選んだ。今後地域ごとに設けるモデルルート上の案内看板や路面表示、のぼり旗などに使用する。

23日、県庁で表彰式があり、塩田

ロゴマーク決まる

鹿児島県サイクルツーリズムのロゴマークと制作した上笹貫鷹暁さん

康一知事が副賞の旅行券や特産品を贈った。上笹貫さんは「停滞気味の世の中で、GOというキーワードは前向きな記号としてふさわしいと考えた」と説明した。(徳重里香)

<ロゴの使用例>

(のぼり旗)



(サイクルラック)



(サイクリングマップ)



(スタンプラリー チラシ)



【参考】ロゴ作成について

※第1回県サイクルツーリズム推進協議会資料より

<目的>

鹿児島県内一体となって、サイクルツーリズムを推進・取り組むための共通ロゴを作成し、案内看板や路面標示、のぼり旗、ホームページに掲載し、広く浸透を図る。

● ロゴ制定までのスケジュール

[7月中旬～8月31日]
鹿児島県ホームページにて、公募

[9月1日～9月15日] 1次審査
協議会事務局で応募案件の基準確認、絞り込み作業

[9月24日～10月1日] 2次審査
会員投票による審査

[10月22日] 最終決定
第2回協議会にて最終決定

[11月19日～]
制定したロゴのデータ作成・配布、使用の運用開始

[県ホームページの最新情報に掲載し、公募]



募集要項（概略）

- ・募集期間：7月19日～8月31日
- ・応募資格：県内在住・在勤・在学、出身の方（プロ、アマ、年齢不問）
- ・応募要件：鹿児島県を表現し、サイクリングの楽しさ、未来を感じさせるもの。
- ・応募方法：ホームページから要項をダウンロードして、Eメールまたは郵送にてデータ、またはA4用紙データを送信。データの場合は所定のサイズや形式の規格
- ・注意事項：第三者の権利を侵害しないものに限る、万一第三者との権利侵害等の問題発生時は当事者間で解決し、県や協議会は関与しない等の条件付記。採択後に、必要に応じてデザインの修正を施すことがある等。

サイクルツーリズムホームページについて

- 鹿児島県観光サイト内に、サイクルツーリズムの特集ホームページを作成し、県内のサイクル情報を一元的に発信する。令和4年3月末公開に向けて準備中。

<サイトイメージ>



鹿児島県観光サイト
かごしまの旅

学校・旅行会社の方へ | Language

特集 モデルコース 観光スポット イベント 体験 グルメ・お土産 宿泊 動画 アクセス

観光キャンペーン情報 | 3つの世界遺産 | しま旅 | 温泉王国 | 桜島 | かごしまインスタ100選 | かごしま安心の宿 | クルーズかごしま

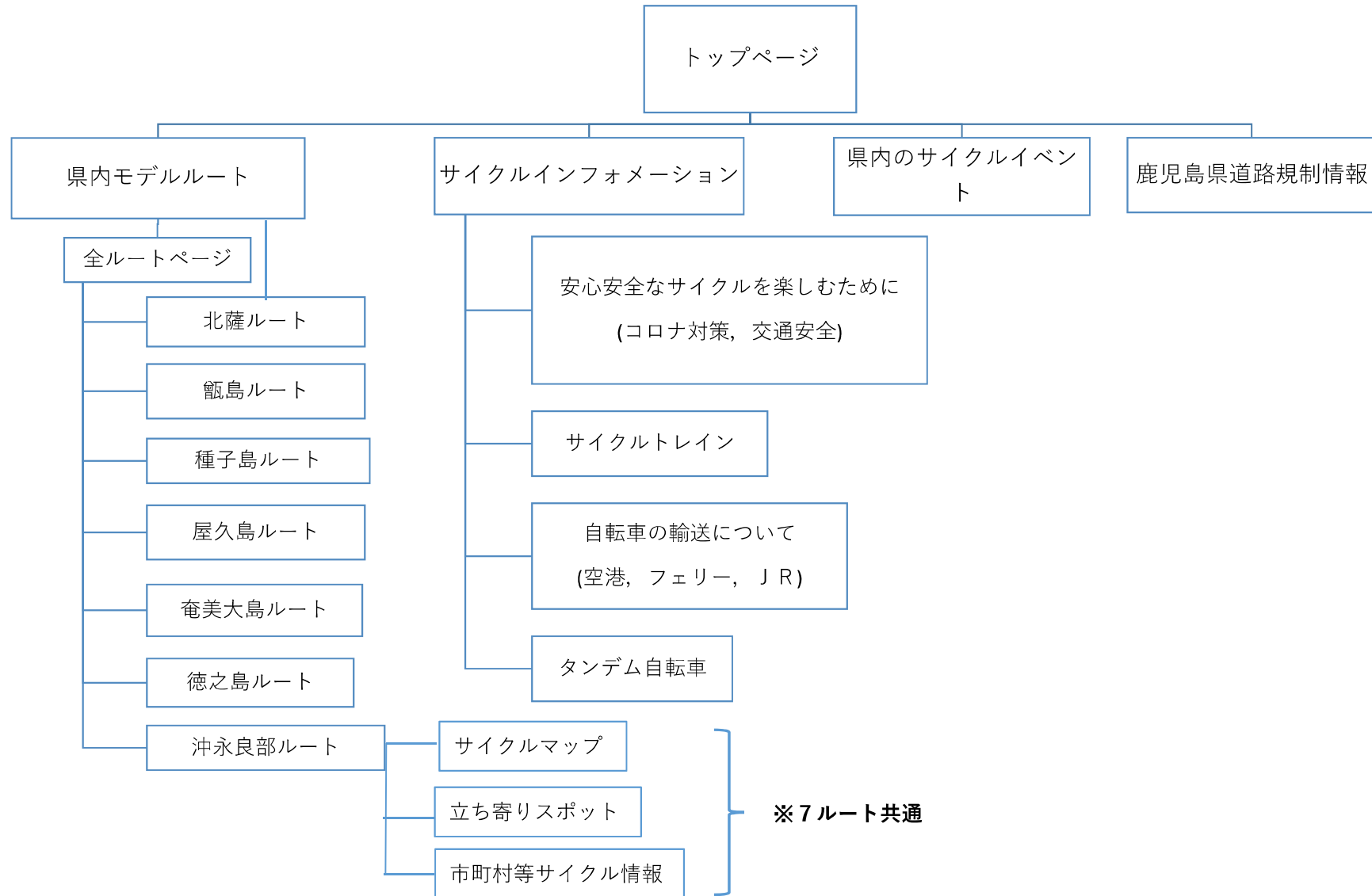
HOME > 観光 > 今こそ自転車旅！絶景かごしまサイクリング

今こそ自転車旅！絶景かごしまサイクリング

南北600kmと縦に長い鹿児島県では、エリアによってさまざまな表情を見られるのが魅力。この特集では、地元のサイクリストが実際に走って選んだおすすめルートを、周辺の見どころとともに紹介します。サイクリングに必要なコースのアップダウンや休憩＆宿泊施設などのサポート情報はもちろん、鹿児島らしいフォトジェニックな絶景ポイントまで詳しく解説！旅のテーマや一緒に行くメンバーに合わせてルートを選び、安心安全で楽しい自転車旅を満喫しましょう。

サイクルツーリズムホームページツリー図

資料5



R4年度サイクルツーリズム推進事業(案)

<目的>

本県の自然・景観など豊かな地域資源を活かしたサイクルモデルルートを設定し、国内外へ地域の魅力を発信することにより、県内全域への自転車による周遊観光を推進し、交流人口の拡大を推進することを目的とする。

事業内容

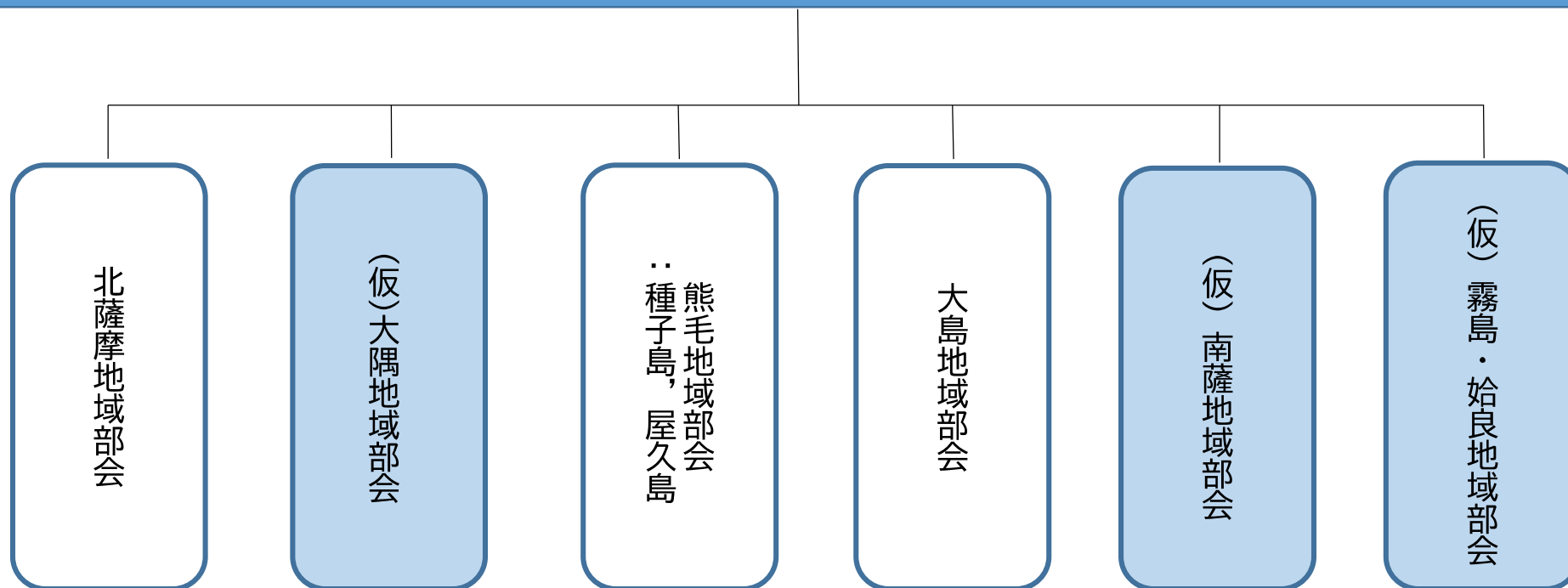
- (1) 県サイクルツーリズム推進協議会(地域部会含む)の開催
- (2) モデルルートのサイクルマップの作成
- (3) サイクルツーリズムセミナーの開催
- (4) モニターツアーの実施
- (5) サイクルホームページの運営
- (6) サイクルステーション等整備事業補助

九州・山口サイクルツーリズム

- ・九州・山口サイクルツーリズム推進委員会による情報発信
- ・国際サイクルレース「ツール・ド・九州」と併せて販売するサイクリング周遊型旅行商品「ディスカバー九州」に係るプロモーション事業

R4年度地域部会について

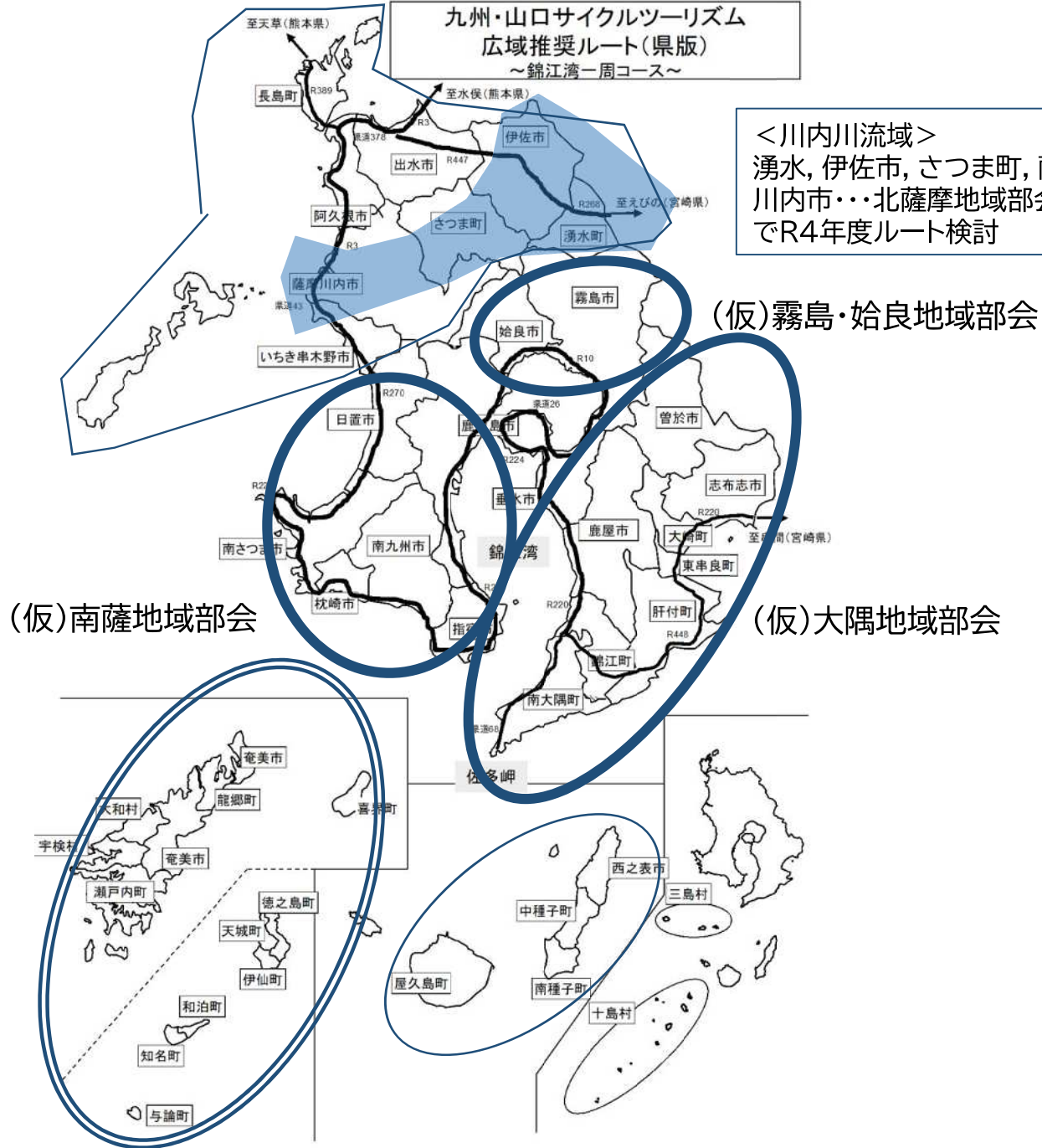
鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会



今年度設置の地域部会：北薩摩地域部会，熊毛地域部会(種子島，屋久島)，大島地域部会
来年度設置予定の地域部会(仮)大隅地域部会，(仮)南薩地域部会，(仮)霧島・始良地域部会

九州・山口サイクルツーリズム
広域推奨ルート(県版)
～錦江湾一周コース～

<川内川流域>
湧水, 伊佐市, さつま町, 薩摩
川内市・・・北薩摩地域部会内
でR4年度ルート検討



鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会規約

(名称)

第1条 本会は、鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、県内市町村及び関係団体等が連携・協力し、本県の自然・景観など豊かな地域資源を活かしたサイクルモデルルートを設定し、国内外へ地域の魅力を発信することにより、県内全域への自転車による周遊観光を推進し、交流人口の拡大を推進することを目的とする。

(内容)

第3条 前項の目的を達成するため、次に掲げる事項に関し、協議・検討する。

- (1) 鹿児島県におけるサイクルモデルルートの設定
- (2) サイクルツーリズムに係る情報発信
- (3) サイクルツーリズムに係る受入環境
- (4) その他サイクルツーリズム推進に係る事項

(組織)

第4条 協議会は、自転車及び観光に関わる関係機関をもって組織する。(別表1)

(任意入退会)

第5条 協議会は、任意に入退会することができる。

(座長)

第6条 協議会に座長を置き、会員の互選によりこれを定める。

2 座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

(部会)

第7条 協議会は、地域ごとに部会を設け、検討を行うことができる。

(事務局)

第8条 本会の事務を処理するために事務局を置く。協議会の事務局は鹿児島県観光・文化スポーツ部観光課内に置く。

(雑則)

第9条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

附 則

この規約は、令和3年7月8日から施行する。

別表 1 (第 4 条関係)

9 4 団体 (令和 3 年 11 月 19 日時点)

市町村	鹿児島市
	鹿屋市
	枕崎市
	阿久根市
	出水市
	指宿市
	西之表市
	垂水市
	薩摩川内市
	日置市
	曾於市
	霧島市
	いちき串木野市
	南さつま市
	志布志市
	奄美市
	南九州市
	伊佐市
	姶良市
	さつま町
	長島町
	湧水町
	大崎町
	東串良町
	錦江町
	南大隅町
	肝付町
	中種子町
	南種子町
	屋久島町
	大和村
	宇検村
	瀬戸内町
龍郷町	
喜界町	
徳之島町	
天城町	

市町村	伊仙町
	和泊町
	知名町
	与論町
国土交通省 九州地方整備局	鹿児島国道事務所
	大隅河川国道事務所
	川内川河川事務所
観光関連団体	公益社団法人 鹿児島県観光連盟
	公益財団法人 鹿児島観光コンベンション協会
	枕崎市観光協会
	株式会社まちの灯台阿久根
	一般社団法人 出水市観光特産品協会
	公益社団法人 指宿市観光協会
	一般社団法人 日置市観光協会
	一般社団法人 曾於市観光協会
	公益社団法人 霧島市観光協会
	いちき串木野市観光特産品協会
	一般社団法人 南さつま市観光協会
	一般社団法人 奄美群島観光物産協会
	南九州市観光協会
	一般社団法人 始良市観光協会
	一般社団法人 さつま町観光特産品協会
	肝付町観光協会
	屋久島観光協会
	喜界島観光物産協会
	一般社団法人 徳之島観光連盟
	一般社団法人 おきのえらぶ島観光協会
	株式会社薩摩川内市観光物産協会
	株式会社おおすみ観光未来会議
	一般社団法人 あまみ大島観光物産連盟
一般社団法人 いぶすき観光デザイン	
サイクル関係者	鹿児島県自転車競技連盟
	鹿児島県サイクリング協会
交通関係者	九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社
	肥薩おれんじ鉄道株式会社
	鹿児島県旅客船協会
	日本エアコミューター株式会社
	鹿児島空港ビルディング株式会社

交通関係者	一般社団法人 鹿児島県タクシー協会
	公益社団法人 鹿児島県バス協会
その他関係団体	社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会
	一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会
	一般社団法人 鹿児島県聴覚障害者協会
鹿児島県警察本部	交通部交通規制課
鹿児島県	観光・文化スポーツ部観光課
	観光・文化スポーツ部スポーツ振興課
	総務部男女共同参画局くらし共生協働課
	総合政策部交通政策課
	土木部道路維持課
	鹿児島地域振興局
	南薩地域振興局
	北薩地域振興局
	始良・伊佐地域振興局
	大隅地域振興局
	熊毛支庁
	熊毛支庁 屋久島事務所
	大島支庁

第3回サイクルツーリズム推進協議会 参加者名簿

別紙2

NO.	自治体（団体）名称	担当窓口（部署）	出席者氏名	
1	鹿児島市	スポーツ課 主任	西 悠	
2	鹿屋市	ふるさとPR課 主任主事	西郷 裕也	
3	枕崎市	水産商工課 観光交流係 主事補	守崎 伶	
4	阿久根市	商工観光課 観光推進係 主事 都市建設課 建設係 課長補佐兼建設係長 都市建設課 建設係 技師補	宮田 景大 松山 直人 牛之濱 大星	
5	出水市	観光交流課 主査	窪 太吾	
6	指宿市	観光課 観光企画係 主査	梶原 洋平	
7	西之表市	観光交流係長	美坂 達也	
8	垂水市	課長補佐兼観光推進係長 水産商工観光課 主任主事	大迫 隆男 谷川 智彦	
9	薩摩川内市	商工観光部 観光・シティセールス課 観光おもてなしグループ長	崎山 智弘	
10	日置市	総務企画部 商工観光課	前田 祐輝	欠席
11	曾於市	商工観光課・主事	井福 萌子	
12	霧島市	観光PR課 主査	瀧田 賢	欠席
13	いちき串木野市	シティセールス課 主事	栗元 友貴	
14	南さつま市	観光交流課 係長 観光交流課 観光デザイナー 観光交流課 主任	中村 智洋 坂本 高昭 小原 和彦	
15	志布志市	港湾商工課シティセールス室観光特産品係主査	橋川 真悟	
16	奄美市	商工観光情報部 観光課長 主事補	川畑 博行 梶 貴明	
17	南九州市	商工観光課 主査	有園 由香	
18	伊佐市	伊佐PR課 交流ビジネス推進係 主事	中村 勇太	
19	始良市	商工観光課 主査	今里 あゆみ	
20	さつま町	商工観光PR課観光PR係長	上原 光志	
21	長島町	水産景観課 課長補佐兼商工観光係長	小田 計	欠席
22	湧水町	課長補佐	福寿 裕臣	
23	大崎町	企画調整課 主事	豊住 文	
24	東串良町	企画課 課長補佐	畠中 輝久	
25	錦江町	観光交流課長	香岐 英星	欠席
26	南大隅町	商工観光課 主査	黒瀬 謙太	
27	肝付町	内之浦総合支所 産業創出課 商工観光係長	磯俣 圭一	
28	中種子町	企画課長	上田 勝博	
29	南種子町	企画課 観光経済係長	小脇 健作	欠席
30	屋久島町	観光まちづくり課長 観光まちづくり課 観光推進係	泊 光秀 宇都 翔吾	
31	大和村	企画観光課 主査	後藤 美穂子	
32	宇検村	企画観光課	竹下 世利人	
33	瀬戸内町	水産観光課観光振興係主事 水産観光課観光振興係主事補	花岡 香菜子 龍山 和彦	
34	龍郷町	企画観光課 課長補佐 たつごうサイクルプロジェクト担当	村山 健一郎	
35	喜界町	企画観光課・主事	登 聖佳	
36	徳之島町	地域営業課 兼 主幹	沖 よしみ	欠席
37	天城町	商工水産観光課 主事補	富山 美穂	
38	伊仙町	きゅらまち観光課 主幹兼係長	迫田 龍二	
39	和泊町	企画課 主査	吉成 大	
40	知名町	企画振興課・主事	奥間 卓斗	
41	与論町	商工観光課 係長	裾分 大喜	欠席
42	鹿児島国道事務所	交通通対策課 課長 専門員	佐藤 博信 岡元 侑己	
43	大隅河川国道事務所	道路管理課 専門職	前田 修蔵	
44	川内川河川事務所	調査課 調査課長 調査課 調査係	伊東 理博 坂田 朋幸	
45	公益社団法人 鹿児島県観光連盟	国内誘致部長	橋口 多恵子	
46	公益財団法人鹿児島観光コンベンション協会	観光推進部長	大坪 聡	
47	枕崎市観光協会	枕崎市水産商工課 観光交流係 主事補	守崎 伶	
48	株式会社まちの灯台阿久根	代表取締役	石川 秀和	欠席

NO.	自治体（団体）名称	担当窓口（部署）	出席者氏名	
49	一般社団法人 出水市観光特産品協会	観光部 主任 出水市地域おこし協力隊	盛 愛佳 坂本 謙	
50	公益社団法人 指宿市観光協会	総務部事務局長	廣森 一仁	
51	一般社団法人 日置市観光協会	事務局長	野元 暢	
52	一般社団法人 曽於市観光協会	主任	赤坂 泰成	
53	公益社団法人 霧島市観光協会	主任	川原 健一	
54	いちき串木野市観光特産品協会	会長	久木山 睦男	欠席
55	一般社団法人 南さつま市観光協会	事務局長	出原 勝博	
56	一般社団法人 奄美群島観光物産協会	参事 観光部サブリーダー	松元 英雄 榮野 知美	
57	南九州市観光協会	専務	大坪 力	
58	一般社団法人 始良市観光協会	事務局 事務局長	渡辺 秀文	
59	一般社団法人 さつま町観光特産品協会	事務局次長	犬石 祐次	欠席
60	肝付町観光協会	事務局長	加治木 智子	
61	屋久島観光協会	会長 事務局長	後藤 慎 西川 泰伸	
62	喜界島観光物産協会	事務局長	田邊 大智	
63	一般社団法人 徳之島観光連盟	事務局	浅野 綾	
64	一般社団法人 おきのえらぶ島観光協会	事務局	森岡 峻一	
65	株式会社薩摩川内市観光物産協会	観光旅行事業部 部長	三宅 泰史	
66	株式会社おおすみ観光未来会議	チーフディレクター兼総務課長	原添 耕作	
67	一般社団法人 あまみ大島観光物産連盟	事務局長	境田 清一郎	
68	一般社団法人 いぶすき観光デザイン	事務局長	園田 浩一郎	
69	鹿児島県自転車競技連盟	事務局	木下 唯一	
70	鹿児島県サイクリング協会	事務局長	角園 浩	欠席
71	九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社	総務企画課（営業）	中島 進	
72	肥薩おれんじ鉄道株式会社	営業部企画営業課 係長	山下 鎮	
73	鹿児島県旅客船協会	事務局長	平田 勇夫	
74	日本エアコミューター株式会社	経営企画部 地域連携グループ	中鶴 華子	
75	（追って送付）鹿児島空港ビルディング(株)	事業広報部事業広報課 主任	中次 秀樹	
76	一般社団法人 鹿児島県タクシー協会	専務理事	山口 俊則	
77	公益社団法人 鹿児島県バス協会	事務局長	山口 重幸	欠席
78	鹿児島県警察本部	理事官	南 英雄	欠席
79	県観光・文化スポーツ部観光課	観光課長 観光課 主幹 観光課 主事	廻 秀仁 蔭山 康代 鹿島 美幸	
80	県観光・文化スポーツ部スポーツ振興課	主幹兼スポーツツーリズム係長	矢崎 晋	
81	県総務部 男女共同参画局くらし共生協働課	くらし共生協働課 主幹兼くらし安全係長	田淵 知子	
82	県総合政策部交通政策課	総合政策部交通政策課 課長補佐	諏訪 哲郎	
83	県土木部道路維持課	道路維持課 係長	安田 伸司	
84	鹿児島地域振興局	総務企画課 主事	森永 愛美	
85	南薩地域振興局	総務企画部総務企画課地域振興係 係長 総務企画部総務企画課地域振興係 主事	池田 美千代 角 大地	
86	北薩地域振興局	総務企画課・主事	井立田 剛 永山 善徳 田中 嘉浩 米盛 洋子	
87	始良・伊佐地域振興局	総務企画課主幹兼地域振興係長 総務企画課・主査	跡上 竜郎 北山 千夏	
88	大隅地域振興局	総務企画部総務企画課 主事	徳富 翔大	
89	熊毛支庁	総務企画部総務企画課・地域振興係長 総務企画部総務企画課 主事	新西 孝 児島 大佑	
90	熊毛支庁 屋久島事務所	総務企画課・主幹（環境・観光担当）	田中 省吾	
91	大島支庁	総務企画課主幹兼商工観光係長	坂元 祐次	
92	社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会	スポーツ情報課 課長	前田 究	
93	一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会	会長	田中 勉	
94	一般社団法人 鹿児島県聴覚障害者協会	会長	大久保 正代	

※2月10日現在



サイクルツーリズムオンラインセミナー

これからサイクルツーリズムについて、持続可能な観光の誘客施策として地域への貢献、サイクリストと地域住民の安全確保、そして誰もが楽しめるユニバーサルツーリズムの実現をテーマに、参加者とともにトークセッションを交えたセミナーを開催します。



開催日時

令和4年2月14日(月) 14:40~16:00 予定

<鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会 第3回総会の終了後に実施します。>

参加方法

「オンライン(Zoomミーティング方式)」で開催します。

(第3回総会と同一ID・PWとなりますので、会議後そのままご参加いただけます。)

参加対象

鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会、各地域部会 会員

講演テーマ

「これからのサイクルツーリズム」

トークセッション方式にて、サイクルツーリズムに係る誘客・安全確保・ユニバーサルツーリズムについて先進事例等を学びます。

講師

講師 : BREZZA 顧問アドバイザー 金井永里子氏

ファシリテーター: BREZZA 代表取締役 箆島 洋敏氏

※講師、ファシリテーターのプロフィールは、次ページ参照

【主催】

鹿児島県

講師

金井 永里子氏



<プロフィール>

ロードバイク人気を巻き起こしたロードバイク 専門誌「FUNRIDE」の編集部で活躍した経験を持つ。

自転車業界関係の多様な方々とのリレーションを持ち、トップアスリートをはじめ多くのサイクリストに絶大な人気を持つ。国内のみならず台湾でもネットワークを持つ。

ANA協賛イベントにおけるサイクリングツアーでは、全国、海外各就航地のサイクリングコースを紹介し、その記事は幅広いサイクリストに支持されている。

現在は、東京をベースにしたサイクリングクラブ「東京ブラチャリ」を主催し、地域の方々にサイクリングの楽しさを伝える活動を展開。サイクリングの楽しさを伝えるとともに、サイクリストとしてのエチケット、マナーを伝える活動を行う。

ファシリテーター

箆島 洋敏氏



<プロフィール>

福岡県出身、全日本空輸株式会社マーケティング室、2007年高品質なプレミアムサイクリングを提案する会社として株式会社 BREZZA を設立。欧米豪インバウンド向け観光サイクリング、「東京ブラチャリ」の運営、秋田県、山形県、北海道および観光庁誘客多角化肝付町のサイクルツーリズム推進事業、観光庁域内連携事業：おおすみアドベンチャートラベル形成実証事業などに参画。ANAインバウンド推進協議会会員、自転車活用研究会会員、合同法人アドベンチャーバケーションネットワークに加盟。

<お願い>

セミナーのアンケートにご協力ください。

スマートフォンからも簡単にご記入いただけます。右記QRコードをご利用ください。

【QRコード】



URLはこちら

<https://docs.google.com/forms/d/15L8NJGrbOmhlHD6wYQN3pPaQAe-o01jJdbw2DrYbT0/edit>

※オンライン参加方法は、開催日3日前をめぐに、ご参加のID・PWをお知らせいたします。

運営・事務局

株式会社ANA総合研究所「元気な日本」創生事業部

〒105-7140 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

TEL 050-3755-0980 担当 丸山

令和4年3月 16 日

県サイクルツーリズム推進協議会加盟団体各位

県観光・文化スポーツ部観光課長

第3回鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会の協議事項審議結果について

本県の観光振興につきましては、かねてから格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、第3回県サイクルツーリズム推進協議会の協議事項に係る結果について、下記のとおり御報告いたします。

記

1. 協議事項

モデルルート(北薩・甕島・種子島・屋久島)について

2. 結果

議案について、賛成多数の承認をもって可決。

(内訳)

○承認 76件

○意見を付して承認する 1件

一般社団法人 始良市観光協会

対象が「サイクリスト」限定という印象を受ける。装備や距離など観光という視点で考えればとてもハードルが高い。裾野を広げるための工夫・取り組みが必要ではないか。

また、地域の理解はどの程度すすんでいるのか気にかかる。

○意見を付す 1件

県警察本部交通規制課

承認判断の立場になく、各ルートにおける懸案事項を意見として付す。(別紙参照)

○未回答 16件

【問合せ先】

鹿児島県観光・文化スポーツ部観光課観光地づくり係 担当:鹿島

TEL:099-286-3005

Mail:kdukuri@pref.kagoshima.lg.jp

【受託事業者】

株式会社ANA総合研究所「元気な日本」創生事業部

地域創生チーム 担当:丸山

TEL:050-3755-0980

Mail:soukenjimu@ana-ri.co.jp

第3回 鹿児島県サイクルツーリズム推進協議会 ・ 議事録

実施日時	令和4年2月14日(月) 13:30~14:30	実施場所	ZOOM 会議オンライン形式
出席者 (事務局)	鹿児島県 観光・文化スポーツ部観光課 廻課長、蔭山主幹、鹿島主事 BREZZA 箴島様 ANA 総合研究所 主席研究員 丸山(議事録)、ジエレミー		
<p>[議事]</p> <p>1.協議事項 モデルルート(北薩・甕島・種子島・屋久島)について ……………資料1</p> <p>2.報告事項</p> <p>① 走行環境整備に係る方針(案)について ……………資料2</p> <p>② 奄美群島サイクルツーリズム構築事業について(大島支庁報告) ……………資料3</p> <p>③ サイクルツーリズムロゴマークについて ……………資料4</p> <p>④ サイクルツーリズムHPについて ……………資料5</p> <p>⑤ 来年度のサイクルツーリズム推進事業について ……………資料6</p> <p>【会議資料】 事前に参加者へメール等にて送付 済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 モデルルート(北薩・甕島・種子島・屋久島)について ・資料2 走行環境整備に係る方針(案)について ・資料3 奄美群島サイクルツーリズム構築事業について(大島支庁報告) ・資料4 サイクルツーリズムロゴマークについて ・資料5 サイクルツーリズムHPについて ・資料6 来年度のサイクルツーリズム推進事業について ・別紙1 協議会規約 団体名簿(加盟団体の追加) ・別紙2 第3回協議会参加者名簿 ・別紙3 サイクルツーリズムセミナー ご案内 			

■開会 ごあいさつ 県観光課 廻課長

- ・本日のオンラインとなった上でのご参加、幅広い関係者にご同意いただき昨年7月設立総会以来、関係者への謝辞。
- ・モデルルート作成のため、熊毛・北薩摩・大島地域部会の地域の方による参画・運営、有識者の黒川様をはじめとすご協力のもと実走検証も終えて、本会議にてモデルルートを諮る段取りとなったことに重ねて御礼申し上げます。本会議にて承諾された暁には、県の観光サイトにも掲載し、来年度には他の地域のモデルルートの作成や新しくサイクリストの受け入れ環境の整備、補助制度等に取り組んでまいります。今後ともご理解・ご協力いただきたい。

■ご案内と式次第 説明 ANA総合研究所丸山

- ・第2回協議会以降、県身体障害者福祉協会，県視覚障害者団体連合会，県聴覚障害者協会の3団体に御参画いただきました。（別紙1を参照）

【議事録】（以下敬称略）

座長：黒川様（CCC）がファシリテーターとして進行実施。

<審議事項>モデルルート（北薩・甑島・種子島・屋久島）について 資料1/説明者：ANA総研 丸山

ANA総研 丸山

- ・資料1に沿い、実走記録の動画を使用して、モデルルート（北薩・甑島・種子島・屋久島）について説明。
- ・実走検証では、有識者の黒川様、徳田様に加えて、シエルブルーの選手、鹿屋体育大学自転車競技部の現役学生、各地域の地元のサイクリスト、私もANA自転車チームのメンバーとして、カメラマンのジェレミー、県観光課、そして各自治体の皆様に参加いただき、コロナ禍の中で対策をしながら、10月下旬から11月中旬にかけて4ルートで実施。

●北薩ルート

北薩ルートは、2日間の実走検証を出水市から出発し、いきなり登り坂がきつい紫尾峠を踏ん張ってペダルを回して越えて、さつま町の宮之城へと一気に風を切って下っていった。さつま町では川内川の河原で弁当を食べながら、風やせせらぎの音に癒された。その後は蘭牟田池まで再び上りもあったが、池ではアヒルの歓迎を受けて疲れを忘れた。薩摩川内市の道の駅樋脇では、足湯にゆっくりつかりながら安納芋の蜜がかかったソフトクリームを食べることができた。街中に入り、中心部の川内駅前でこの日最後の休憩を取り、西日に向かって川内港へ走り抜け、一日目は終わった。2日目朝は、川内川あらしと呼ばれる川から立ち上がる霧の中をスタート、交通量の多い国道3号では車に気を付けながら北上、西方駅の休憩ではオレンジ鉄道のかまもんの車両に癒され、立派な阿久根駅のサイクルステーションで休憩し、サンセットで有名な海岸沿いから、うずしお展望台に到着。そして黒之瀬戸大橋を渡り、長島町を時計回りに一周。2か所の道の駅で休憩し、交通量も少なく心地よい海風にあたりながら、再び黒之瀬戸大橋を渡り、出水市に入りツル観察センターを通り抜け、2日間で183kmのルートを走り切った。なおモデルルートは川内駅を起点・終点として時計回りに一周。

●甑島ルート

甑島ルートは、川内港から船で里港に渡り、甑島内で72km、長浜港から船で串木野新港へ戻り、いちき串木野市から川内港までの28kmの合計100kmからなる島と本土側を結ぶ一周ルート。実走検証では

あいにく1日目は雨天となりサイクリングができなかったが、里の武家屋敷の街並みや古民家を改修したパン屋などをブラブラと散策を楽しんだ。里に宿泊し2日目は天気が少し回復したので途中からサイクリングを行い、コシキテラスでは人気のコシキバーガーのランチがおすすめ。そして上甕から、中甕、下甕へと一昨年橋でつながった甕島列島の一本道を進む。甕大橋は全長1533mと距離も長く、強風にも注意するポイントだが、このあたりまで来ると車の通行がほとんどないので、聞こえてくるのは風の声、海の潮騒、時よりカモメの鳴声という世界。途中海や断崖を見下ろす数か所の展望所で休憩を取りながら、長浜港を越え、手打浜までの往復ルート。帰りは長浜港から串木野へフェリーで渡り、いちき串木野市内の薩摩藩英国留学生記念館で学びの観光と休憩しながら、川内港までを走るルート。

●種子島ルート

種子島ルートは、西之表市の港からスタートし、南北に縦長の島を中間の中種子町でクロスするように8の字の外周を反時計回りに走る一周ルート。種子島はどこを走っても空が広くて、青い空と青い海がとても美しい島のルート。南の先端門倉岬は鉄砲伝来の地で、そのモニュメントがあり、太陽のまぶしさと海の青さのコントラストがまさに絶景。南種子町のロケットセンターの広大な芝生で寝ころびながら休憩し、はるか宇宙に思いを巡らせた。途中ジェラートを食べ休憩しながら1日目のゴール中種子町役場を目指した。2日目は中種子町から西海岸を北上し、強風に気を付けながら絶景のカシミヤ橋を渡り、北の先端喜志鹿崎灯台を目指した。灯台からは、大隅半島が一望でき、海水浴で人気の浦田海岸も白い砂と青い海のコントラストが美しく、こちらではスムージーがおいしくいただけました。そして、再び街中の西之表港のゴールを目指して走り続けた。2日間で一周160kmの壮大なルート。

●屋久島ルート

屋久島ルートは、宮之浦港から反時計回りで海岸沿いを一周する約100kmのルートだが、実走検証では逆回りで走った。島の玄関、宮之浦港から安房、南の尾之間あたりまでは、車の交通量も多いので、走行は車に注意が必要。島の南西側の大川の滝あたりまで来ると交通量は少なくなるが、世界遺産の地域にある西部林道は手つかずの自然で、野生のサルやシカなど路上に動物が多いのと、電波が圏外なので走行には特に注意が必要。約26kmの西部林道を抜けて1日目のゴールは永田浜、海に沈む夕日がきれいだった。2日目は屋久島灯台からスタートし、宮之浦まで海岸線を走りぬけ、ゴール後はカフェで休憩した。カフェでの休憩は疲れが癒された。

質疑応答 : なし

・審議の回答については、(事前送付済み) 回答書にて2月28日(月)までに送付を依頼。

<報告事項>

① 走行環境整備に係る方針(案)について 資料2/説明者：県道路維持課/安田係長

- ・資料2に沿い、走行環境整備に係る方針(案)について説明。
 - モデルルートにおける自転車走行空間整備(路面表示)ガイドライン(案)を他県の方針も参考にしながら検討している。
 - 当ガイドライン(案)は、①「自転車の安全な走行」、②「観光客が迷わず目的地へ辿り着くための路面標示」を目的としている。
 - 今回、地域部会で設定されたモデルルートについては県自転車活用推進計画に位置付けた上で、現地の状況等を踏まえ、路面標示等による自転車走行空間の確保に努めてまいりたい。

質疑応答：なし

② 奄美群島サイクルツーリズム構築事業について 資料3/説明者：大島支庁総務企画課/坂元主幹

- ・資料3ならびに別途資料に沿い、奄美群島サイクルツーリズム構築事業について説明。
 - 10月から11月にかけて、「奄美群島サイクルツーリズム協議会」を奄美大島、徳之島、沖永良部島で各2回開催。メンバーは地域の幅広い関係者、有識者であり、官民一体となって取り組んでいる。協議会では、サイクリングの基礎知識や先進事例紹介等の講演も行った。
 - 12月に実施した実走調査では、有識者や地元関係者に協力いただき、安全性などの調査を行った。
 - 今後、完成したモデルコースをサイクルツーリズム特集ページにて紹介するほか、アプリ(ツール・ド)に掲載予定。

質疑応答：なし

(補足：県観光課/蔭山主幹) 今回奄美群島で取り組まれているサイクルルートにつきましても、今後、当該協議会にお諮りし、県モデルルートとしたいと考えている。

③ サイクルツーリズムロゴマークについて 資料4/説明者：県観光課/蔭山主幹

- ・資料4に沿い、サイクルツーリズムロゴマークについて説明。各種宣材物への展開をお願いしたい。
 - 昨年7月の設立総会で案内したが、県全体としてサイクルツーリズムを推進していくための共通ロゴを作成した。
 - 8月末までの募集期間に67件の応募をいただき、協議会の審査を経て、最優秀作品を決定。

- ロゴマークは鹿児島のGOをキーワードに「鹿児島」と「サイクリング」を結んだデザインとなっている。
- 12月23日には最優秀作品をデザインされた上笹貴氏の表彰式を県庁にて行った。
- ロゴマークの使用については、幅広く・積極的に活用いただきたい。
- ロゴマークの色については、白地に黒マークをベースとしており、今後は、地域部会で協議いただくなどして、地域の色を設定するなど、地域ごとに多様に展開いただきたい。

質疑応答 : なし

④ サイクルツーリズム HPについて 資料5 / 説明者：県観光課 / 蔭山主幹

- ・資料5に沿い、サイクルツーリズム HPについて説明。
 - 県観光サイト内に作成する、県内のサイクル情報を一元的に発信するサイクルツーリズムの特集ページを3月末の公開に向けて、現在準備中。
 - ホームページのツリー図の構成としてはトップページの下に、今年度検討した地域のサイクルルートである「県内おすすめルート」を紹介するページ、次に交通安全対策や交通関係情報などを紹介する「サイクルインフォメーション」、そのほか、「県内のサイクルイベント」、
「県道路規制情報」を掲載する予定。
 - イベントなど情報があったら連絡いただきたい。

質疑応答 : なし

⑤ 来年度のサイクルツーリズム推進事業について 資料6 / 説明者：県観光課 / 蔭山主幹

- ・資料6に沿い、来年度のサイクルツーリズム推進事業について説明。
 - 令和4年度の予算については、2月18日から開会する県議会において審議の上、決定することから、予算案として説明する。
 - (1) 地域部会については、令和3年度に、北薩摩地域、熊毛地域、大島地域でそれぞれ部会を設置しており、令和4年度につきましては、南薩地域、霧島・始良地域、大隅地域に設置し、モデルルートの検討を行っていく予定。補足となるが、右上の「川内川流域」については、北薩摩地域部会の3つ目のルートとして、令和4年度に検討を予定。
 - (2) のサイクルマップの作成については、令和3年度及び令和4年度で設定したモデルルートの情報発信ツールとして、鹿児島県のおすすめルートを紹介するマップを作成予定。

- (3) サイクルツーリズムセミナーを開催予定。
- (4) のモニターツアーについては、令和3年度に設定した各地域のモデルルートを活用したモニターツアーの開催を予定。予算が成立し、詳細が決まりましたらルート沿線の皆様にも案内する。
- (5) サイクルホームページについては、情報を更新する。
- (6) サイクルステーション等整備事業補助については、サイクルステーション及び宿泊施設の整備に係る補助を計上しているところ、予算が成立し、詳細が決まったら、案内する。
- 九州・山口サイクルツーリズム推進委員会では、広域推奨ルートを設定し、今年度は台湾版マップを作成し情報発信を行ったところ。今年度末には、広域推奨ルートに南九州横断ルートを追加予定。
- その下の「ツール・ド・九州」については、2023年秋に開催を予定しており、世界のプロ選手が参加予定である国際レース「ツール・ド・九州」の開催と併せて、サイクリング周遊型旅行商品「ディスカバー九州」を販売予定。
- 「ディスカバー九州」は、来年度から旅行商品造成とそのためのルート設定、プロモーションを行っていくこととなっているので、伝えられる状況になったら、随時情報提供する。

質疑応答 :

一社) あまみ大島観光物産連盟 境田様 サイクルステーションの次年度助成はどんな内容か？

⇒まだ予算成立前で正式には決まっておらず、内容を検討中であることから、正式に発表になったら、周知したい。(県観光課 蔭山主幹)

■ CCC 黒川様 ごあいさつ

・今回3地域(北薩、甕島、種子島、屋久島)を訪問し、お世話になりました。奄美を含めた各地と一緒に実走をした仲間に聞くと、サイクリストにとって鹿児島は宝の山であると異口同音に話が出ている。

・場所の見どころ、魅力をセグメントとターゲットを明確にして、多くの方に来ていただいて楽しんでもらいたい。

・まだサイクルツーリズムはスタートしたばかりですが、今後も発展のために貢献していき、一緒に盛り上げていきたい。

■ 閉会

以上